

# 海洋資源環境研究部門

## 1. 課題

海洋における「地質の調査」の組織的取り組みは、地質調査所に海洋地質部が新設された1974年以来、日本周辺及び西・中部太平洋を中心として精力的に実施され、その成果は各種海洋地質図等として社会へ供給されている。海洋地質図に関しては、1/100万等の広域海洋地質図を完備・提供すると共に、主要四島周辺における重磁力異常図を含む海底地質図、表層堆積図(ともに1/20万)を整備・供給中である。そのほか、日本周辺海域鉱物資源分布図や海底音響画像図類、東アジア磁気異常図CD-ROM版などが整備されている。

四半世紀に渡る海域の「地質の調査」は、蓄積された試資料や論文等の知的資産およびそれらを体系化・組織化した上記海洋地質図等の知的基盤を生み出して、海洋における資源・環境・防災に関する基盤的情報として様々な分野で利用されている。しかしながら、広域海洋地質図についても排他的経済水域全てをカバーしておらず、1/20万海洋地質図も主要四島周辺を全て整備するに至っていない。

また、近年とみに要請のある情報のデジタル化も不十分である。これらに早急に対応し、公共財としての海洋地質情報の提供と、将来の海洋開発の基盤整備を着実に実施するとともに、機関や国を越えた連携・協力により、社会の持続的発展と、「地質の調査」の母体である地球科学の進歩に貢献することが求められている。

## 2. 長期的方針

### 1) 海洋地質図

系統的・統一的に網羅し、常時新たなデータと知見を反映して海洋地質情報の知的基盤とする。まずは2008年を目処に現行様式による主要四島周辺の海洋地質図を整備する。さらに、南西諸島等の諸島域および排他的経済水域の地質情報整備に取り組む。同時に、調査技術等の発展と地球科学の進歩ならびに時代の要請を先取りする新たな様式の海洋地質図設計、より選択された活断層図や海底環境図整備等を推進する。

### 2) 海洋資源環境情報DB

海底鉱物資源情報として、西太平洋を中心とした海底熱水鉱床・マンガン団塊等に関する基盤DBを構築し、維持・公開する。さらに海洋環境変動や沿岸域地質環境に関する調査研究成果を体系化し、海洋地質図の基礎となった海洋地質・地球物理データ等と共に、海洋の地質/環境/資源に関する総合的DBの構築を目指す。本DBは、沿岸/海洋/地球情報のハブの1つとして、インターネット空間での知的基盤供給の基とすべく取り組む。

### 3) 海洋地質調査法等

喫緊の課題として海域活断層の活動ポテンシャルの評価手法の開発・規準作りに着手し、2004年を目処に評価手法の指針を提言する。その他、海洋地質/地球科学に関する基盤的基礎的研究および必要とする技術開発、アジア・大太平洋を中心とした国際協力を積極的に展開する。(宮崎光旗)

